

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
井上公人			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	MJGa-150806-0	15人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

学生が果たした役割は、量的調査および質的調査の企画から報告書に至る全過程にわたる、具体的には、本実習全体の問題設定に即して、実習を通して学んだ。すなわち、先行研究サーベイ、調査課題の設定、仮説設定、調査項目の作成、質問紙の作成（ワーディング、予備調査、編集）、実査（標本抽出、調査票発送作業）、データ入力、クリーニング、集計・分析、結果の考察、報告書作成である。

学生は担当教員の指導の下、主体的かつ協力的に実習に参画し、調査を実施することができた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

都心部の緑地・農地の利活用に向けた地域ネットワークと合意形成 NPOおよびコミュニティ・ビジネスの役割に着目して

2. 調査の内容／概要：

上記のテーマに基づき、練馬区民に対する量的調査として、「練馬区のまちづくりと自然環境に関する調査」と題する調査を実施した。また、この調査では明らかにできない部分を補い、調査結果をより深く解釈するため、行政、コミュニティ・ビジネス関係者に対する聞き取りを行ったほか、フィールドワークも実施した。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

量的調査の母集団は練馬区に居住する2015年12月31日時点で満30歳以上70歳未満の男女とした、サンプリング方法は、当該地域の選挙人名簿抄本を台帳とした無作為抽出とした。計画標本サイズは1,000である。聞き取り調査は、都市農業に関わるアクターであることから、行政、コミュニティ・ビジネス関係者を対象とした。

4. 主な調査項目：

量的調査では、基本属性項目、家族構成のほか、練馬区内での暮らし、近所付き合いや地域参加の状況、社会的ネットワーク、買い物に対する意識、練馬区の自然環境・農業について、練馬区政や政治・社会に対する意識を尋ねた。聞き取り調査では、各アクターの活動方針やその内容、政策との関係などについて聞き取りを行った。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

量的調査では、標本として抽出した調査対象者に調査票を郵送して返送をお願いする郵送法を用いた。質的調査では、半構造化インタビューを採用したほかフィールドワークを実施した。フィールドワークでは、フィールドで出会う方々に話を聞いたり、写真撮影を行うなどしてデータを収集した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

量的調査の実施時期は7/22日(水)予告状発送、7/28日(火)調査票発送、8/17日(月)督促兼お礼状発送、8/21日(金)調査票記載の返送締切日である。質的調査の実施時期は、2015年8月～12月であり、必要に応じて随時調査を実施した。なお、フィールドワークは、9/20(日)に実施した。調査員は15名。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

量的調査の純回収率（有効回収票数を配達不能票を除いた配票数で除した値）は36.9%であり、都心部で謝礼を用いない郵送調査としては、高い値であると言える。回答内容も丁寧で、良質なデータが得られた。質的調査においても充実した結果を得ることができた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

量的データの分析方法は、単純集計、クロス集計、重回帰分析などの多変量解析方法を用いた。質的データの分析方法は、聞き取り内容の録音や写真や、現地で入手した資料を持ち帰って後日共有・検討した。これらの結果について、先行研究を踏まえて社会科学的な解釈を試みた。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

1)地域への愛着や満足度が都市農業への参加を規定する、2)農業に対する意識や実感が農業参加意識を規定し、農業参加意識は農地保全の規定する、3)地域コミュニティ形成に農地の存在は有意な影響を及ぼさない、4)地域に対する満足度はコミュニティ・ビジネスに対する参加や興味を規定する。

10. 報告書刊行の予定と概要：

『社会調査実習報告書 Vol.32』を2016年3月に発行し、本調査の概要を明らかにするほか、より詳細な事柄については、井上公人編、2016、『練馬区のまちづくりと自然環境に関する調査』報告書』を発行して明らかにする。